

目的 衣服製作にあたり縫合部の縫い目割りの良否は、布地のメーキングアップ性および可縫性の上から、シルエットや縫い目の美しさに影響するものとして重要である。布地のメーキングアップ性に関しては、可縫性殊にシームバックリングについて研究がなされ成果も上がっている。しかし、縫い目割り特に合成繊維を素材とする布地の縫い目割りの研究は十分とはいえない。本研究では合織婦人用服地を用い縫製条件の違いによる縫い目割りの良否を定性的にとらえることを試み、さらに布地の構造特性、力学的特性との関係を検討するものである。

方法 試料布は合成繊維（ポリエステル100%）9種類を用い、家庭用ミシンにて縫合後、アイロンで縫い目を割る。アイロンかけ条件は家庭用アイロン（自重1.45kg/160cm<sup>2</sup>）、職業用アイロン（自重2.0kg/190cm<sup>2</sup>）の2種類、アイロン温度140°～150° 時間10秒とした。縫製条件は縫い方向タテ、ヨコ、縫い代長1.5cm、針目数4目/cmである。縫い目割り測定はマイクロスコープにより、縫い代端高さ(H1)、縫い目持ち上がり高さ(H2)、縫い代最大高さ(H3)、縫い目から縫い代最大高さの距離(Y1)、縫い目から縫い目持ち上がり高さ(Y2)を測定し、布地の物性との関係を検討した。

結果 アイロンかけ条件は職業用アイロンの方が縫い目割り部分のセット性がよい。縫製条件の布地方向では組織により縫い目割りは異なる傾向を示した。布地の物性との関係では、厚さが増すとH1、H2、H3、Y1いずれも大きくなる傾向を示した。曲げ剛性が大きくなるとH1、H3、Y1いずれも大きくなる傾向を示した。